

6 . マリアン・マキリン 森の女神(タガログ)

昔々、ラグナが見渡せる高い山の森の中に、マリアン・マキリンと呼ばれる良い妖精がいました。彼女は本当に大変美しく、長い黒髪は彼女のやわらかな肩に流れ、背に垂れて、地面に触れました。彼女のやわらかい、すばらしい皮膚は土の色で、塗れた目は黒く、魅惑するようでした。

マリアは大変親切で、常にその地域の貧しく、不幸な人々を助けていました。彼女の解放する話・・魔術的な親切さは、伝説となっていて、ある貧しい農夫が、悪い病気の、若いふたりの息子を助けるように頼んだ時のことです。彼は妖精の所に助けを求めました。なぜなら、彼には病気の息子たちに治療薬を買ってやるお金がなかったからです。

妖精は、農夫に何ダースもの小さな丸いたまねぎの入ったかごを与えました。農夫には、どのようにして、たまねぎが彼の息子の助けになるかわかりませんでした。妖精に感謝し、たまねぎのかごをさげて、彼の農場へ帰りました。農夫が台所へオニオンスープの準備に行く時、彼が全く見て驚いてしまったことには、かごのたまねぎが純金の固まりになっていたことです。

マリアは、その地方のみんなに大変愛され、敬服されていました。そして、彼女の優雅な美しさのために、多くの男性の求婚者がいました。特に三人の求婚者は、美しいマリアを彼らの花嫁にしたいと思っていました。

ひとはハンサムなスペイン軍の将校ガスパール大尉で、時間に正確、よく鍛えられた男で、いつもスペインからの贈り物をマリアに惜しみなく与えていました。第二の候補はホセ、スペイン人とフィリピン人の混血で、町の大学で働いていました。ホセは裕福な家庭に育ち、世界中を旅していました。彼はマリアに、いつの日か、スペインで暮らすことを約束しました。なぜなら、彼はフィリピンでの生活が、楽しくなかったからです。

マリアの第三の求婚者は、ユアンです。純真、誠実で、よく働くフィリピン人農夫で、小さな農フィリピンの神話と伝説 6 . マリアン・マキリン

場の畑に、果物や野菜を育てていました。マリアはユアンを一番好きでした。なぜなら、彼は誠実で、真実で、生活のありのままを楽しんでいる人だったからです。鳥や動物や、太陽に顔を向け、風を髪に受けていました。彼とマリアは同じ思いを持っていたのです。

本題に入ると、マリアのふたりの求婚者ガスパール大尉とホセは、マリアが誰を選び、将来の夫にするか、知ることが待ち遠しくなりました。そして、できるだけ早く選ぶように、彼女に頼んだのです。

マリアは三人の求婚者に、満月になった夜に、山の頂上に来るように、そうしたら、彼女の決断を示す、と告げました。

数夜過ぎて、満月の銀の光の中で、ガスパール大尉、ホセ、そしてユアンは、美しいマリアの前に集まりました。彼女が、将来の夫に誰を選ぶかについての決断を知らせるためです。

マリアは三人の男を見て、歩いてユアンに近づき、大きな抱擁をして、あたたかな口づけを与えました。ガスパール大尉とホセは、侮辱を感じ、何も語らずに山を降りました。しかし、純真なフィリピン人の農夫によって、愚か者のようにされたことを、彼らは決して忘れませんでした。

ある日、スペイン軍本部が火事になり、焼き落ちた時、町はパニックになりました。怒ったスペイン人ガスパール大尉は、ホセの協力で、すぐに何十人ものフィリピン人を疑いました。そして、それにはユアンも含まれていました。疑われたフィリピン人は誰も、軍本部破壊の放火を認めませんでした。たとえスペイン人によって逮捕され、叩かれ、苦痛を与えられても。

ガスパール大尉は、犯人が特定できない限り、すべての容疑者を首吊りにする、と脅しました。しかし、捕らわれた者は誰も罪を認めませんでした。イライラしたガスパール大尉とホセは、生け贄が必要になり、すべての逮捕者を叩き始めました。もし、彼らみんなが、ユアンを放火犯だと言うなら、みんなを逮捕してやる、と言うのです。不当な扱いと苦しみに疲れて、逮捕者たちは大尉森の女神

の不誠実な扱いに同意してしまいました。

そして、ユアンは牢から引き出され、スペイン兵に鞭打たれ、蹴られ、叩かれました。「お前がスペインの財産を壊した放火犯だとわかった。」ガスパール大尉は叫びました。ユアンを後ろ手に縛った男たちは、彼を小さな町の中央広場に引っ張って行きました。

「でも、私は無実だ！」傷つき、血まみれのユアンは弁解しました。

しかし、彼の弁解は無視されて、兵士たちは孤立無援のユアンを広場の中央の柱に結びつけました。ガスパール大尉は、火の部隊に命じて、ユアンを火あぶりにするため、小銃を立てて、準備をさせました。

大尉が火を放つように命じた時、ユアンは、「マリアン・マキリン！」と広場の中央で叫びました。銃弾は彼の体を貫き、ユアンは血まみれで、銃弾の柱に吊るされました。ガスパールとホセは、お互い顔を見合わせて笑いました。そして、彼らと兵士たちは町の広場を出て行ったのです。

山の森の中で、マリアはユアンの絶望的な死の叫びを聞き、すぐに山から町の中央に急いで降りて行きました。

マリアン・マキリンは、町の広場に急いで行くと、死んでいる血まみれの彼女の恋人が、柱に吊るされているのを見て、心は沈みました。彼女の涙は、彼の血と混じって、彼女は死んだ彼の体を持ち上げ、広場から運び出しました。

マリアは沈黙の町の人々のそばを過ぎ、彼らの身勝手さを叫んで訴えました。「あなたたちは何をしていたの？」彼女は叫びました。「あなたたちは、みんな、何もしないで臆病者よ。あなたたちは、スペイン人によって、自分たちを愚かな羊のようにした。あなたたちには、意地や正義はないの？ 私はあなたたちが情けないわ！」

町の人々は何も言えず、マリアが恋人の死んだ体を抱えて彼らの前を通り過ぎる時、恥ずかしくて頭を垂れました。そして彼女は愛する山に着くまで、ずっと彼の体を抱えて、歩いて行きました。

フィリピンの神話と伝説 6 . マリアン・マキリン 森の女神

山の高い所で、マリアはユアンの体を森の葉で包んで埋めました。彼の新しい墓に、彼女は頭を垂れて、彼の死の責任への復讐をしようと考えていました。

数日後、ホセは、大変な病気になりました。その地の最高の医者努力にもかかわらず、奇妙な病気の原因は見つからず、ついにひどい苦痛の末に、亡くなってしまいました。彼のひどい死は、隣の村にまで聞こえました。

スペインとフィリピンの戦いが、この土地を呑み込んで始まりました。ガスパール大尉は、フィリピン人の反乱鎮圧に呼び出されましたが、彼には、それは数日しか必要ないように思えました。

しかし、彼の最初のフィリピン人反乱の戦いの間に、彼は行方不明になりました。彼の軍隊は、数時間後、フィリピン人の斧が大尉の胸に突き刺さっているを見つけました。彼は死んだのです。しかし、彼の顔には、苦しみと痛みの後が残っているように見えました。彼がゆっくり苦しみの死を経験したことを表していました。でも、不思議なことには、彼の死体が見つかった所では、スペイン人とフィリピン人の戦いは行われていなかったのです。

証拠はありませんが、多くの人は、ホセとガスパール大尉の死は妖精マリアン・マキリンの仕業であり、恋人の死への復讐と、また彼女の望んだ、夫を選ぶことができる女性の権利についての主張であると、繰り返して言っています。

マリアン・マキリンはもう見ることはできません。しかし、ラグナの山の森には、風の中に、妖精の声がしばしば聞こえます。彼女が「ユアン、ユアン」と恋人を呼ぶ声が。